

【法人の概要】

代表者名	理事長 樋田 洋樹	所管部(局)課	農政部 畜産課		
所在地	北杜市小淵沢町10060-3	電話番号	0551-36-3945		
ホームページURL	http://www.nns.ne.jp/ass/baji	E-mailアドレス	baji@nns.ne.jp		
資本金(基本財産)	1,000 千円	設立年月日	昭和57年6月17日		
主な出資者等	出資順位	出資者名等		出資額	出資比率
	1	山梨県		400 千円	40.0 %
	2	北杜市		400 千円	40.0 %
	3	山梨県馬術連盟		200 千円	20.0 %
	4			千円	0.0 %
	5			千円	0.0 %
	6			千円	0.0 %
	7			千円	0.0 %
	8			千円	0.0 %
	9			千円	0.0 %
	10			千円	0.0 %
	出資その他	団体(者)		千円	0.0 %
その他			千円	0.0 %	
			1,000 千円		
設立目的 経緯 概況等	(設立) 本法人は、「かいじ国体」(昭和61年10月)で整備した馬術競技用施設を管理運営し、これを有効活用して事業を実施する法人として、県・小淵沢町・馬術連盟の出捐により設立。 平成24年3月23日 公益財団法人に認定。 (目的) 馬事技術の普及奨励と優良乗用馬の育成供給等を行い、もって畜産の振興に寄与すること。 (経緯概況等) 国体終了後も県の馬事振興を図る拠点とし、各種大会の開催、研修会開催等により馬術普及に貢献している。更には、県内外から人を呼び込むことで、観光業等地域振興にも貢献している。				

【主要事業の概要】

主な事業名	内容	事業費(単位:千円)		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業1 馬事技術普及奨励事業	各種大会・合宿の受け入れ、施設の利用を通して馬事普及を図った。県有競技馬を中心とした調教技術の向上に努め選手強化の実績を挙げた。	58,630	61,076	60,468
事業2 優良乗用馬育成供給事業	競走馬からの転用馬の再調教を施し乗馬関係者に供給した。	2,955	3,078	3,047
事業3 その他法人の目的を達成するために必要な事業	地域と連携し馬の町まつり等の開催を支援し、地域スポーツ文化及び馬事振興発展に協力した。	1,953	2,034	2,014

【組織】

	年度	令和 5 年度					令和 6 年度					令和 7 年度							
		職 員	プロ パー 職員	県 職員 派遣	県 職員 兼務	県 O B	そ の 他	職 員	プロ パー 職員	県 職員 派遣	県 職員 兼務	県 O B	そ の 他	職 員	プロ パー 職員	県 職員 派遣	県 職員 兼務	県 O B	そ の 他
各年度体制	理事(常勤)	1				1	1				1	1				1			1
	理事(非常勤)	8			3	5	9			3	6	9			3			6	
	監事(常勤)	0					0					0							
	監事(非常勤)	2				2	2				2	2							2
	評議員	5				5	5				5	5							5
	計	16	0	0	3	1	12	17	0	0	3	1	13	17	0	0	3	1	13
職員	管理職	0					0					0							
	一般職員	4	3	1			4	3	1			4	3	1					
	臨時職員	2				2	2				2	2						2	
	非常勤職員	0					0					0							
	計	6	3	1	0	0	2	6	0	3	1	0	2	6	0	3	1	0	2
令和7年度 プロパー職員 の年齢構成 (令和8年4月1日現在)	年齢	~20	21~30	31~40	41~50	51~60	61歳以上	合計					平均年齢					平均年収	
	男性					1		1				1	役員 常勤	※				(千円)	
	女性				1	1		2				2	職員 常勤	54				※	
	合計	0	0	0	1	2	0	3				3						(千円)	

※個人の年齢、年収が容易に推定できるため、不記載

【経営の状況】

(単位:千円)

項 目		令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減
正味財産の状況	基本財産等運用益				0
	受取会費・受取寄付金				0
	受託事業収益	28,739	17,260	16,877	△ 383
	自主事業収益	47,515	50,565	33,517	△ 17,048
	受取補助金等	23,973	24,353	124,505	100,152
	その他の収益				0
	経常収入 計	100,227	92,178	174,899	82,721
	事業費	99,747	93,016	92,207	△ 809
	うち人件費	31,626	30,650	31,468	818
	管理費	2,254	2,070	2,083	13
	うち人件費	1,459	1,399	1,709	310
	経常支出 計	102,001	95,086	94,290	△ 796
	当期経常増減額	△ 1,774	△ 2,908	80,609	83,517
	経常外収入				0
	経常外支出	71	71	100,071	100,000
当期経常外増減額	△ 71	△ 71	△ 100,071	△ 100,000	
当期一般正味財産増減額	△ 1,845	△ 2,979	△ 19,462	△ 16,483	
当期指定正味財産増減額	△ 23,973	△ 13,353	△ 24,505	△ 11,152	
正味財産期末残高	510,520	494,188	450,221	△ 43,967	

(単位:千円)

項 目		令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減
財務状況	流動資産	14,288	13,726	2,720	△ 11,006
	固定資産	506,857	489,460	456,518	△ 32,942
	資産 計	521,145	503,186	459,238	△ 43,948
	流動負債	8,297	5,651	5,128	△ 523
	うち短期借入金				0
	固定負債	2,328	3,314	3,888	574
	うち長期借入金				0
	負債 計	10,625	8,965	9,016	51
	正味財産	510,520	494,221	450,221	△ 44,000
	うち基本財産への充当額	1,000	1,000	1,000	0
うち特定資産への充当額	437,146	423,793	399,288	△ 24,505	

(単位:千円)

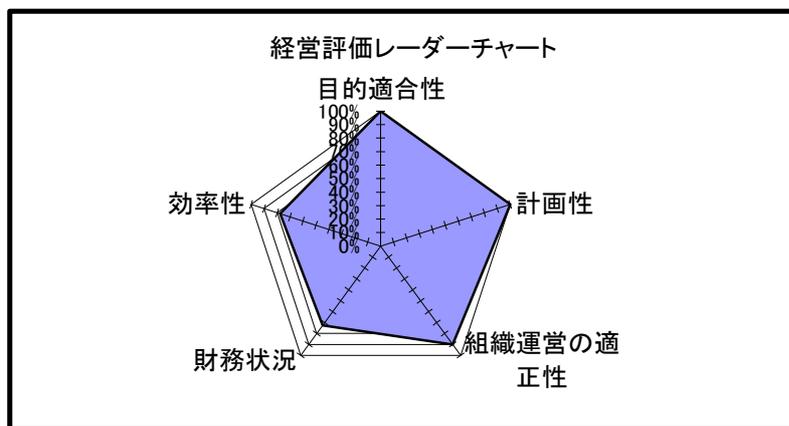
項 目		令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減
県の財政的関与の状況	負担金				0
	人件費補助金				0
	人件費以外の補助金				0
	運営費補助金	0	0	0	0
	事業費補助金			100,000,000	100,000,000
	補助金 計	0	0	100,000,000	100,000,000
	人件費委託金	6,107	6,656	6,303	△ 353
	人件費以外の委託金	10,549	10,604	10,574	△ 30
	委託金 計	16,656	17,260	16,877	△ 383
	県支出金 計	16,656	17,260	100,016,877	99,999,617
	県の財政的関与の割合(%)	16.6	18.7	57,185.5	57,166.8
県貸付金残高				0	
県債務負担実際残高				0	

【県の財政的関与の状況(令和6年度)】

項目	内容・目的・金額
負担金	
補助金 (運営費)	
補助金 (事業費)	企業版ふるさと納税で受けた寄付金を財源とした障害馬術競技馬場の白砂敷設整備費用 100,000千円
委託金	強化指定馬の能力を効果的に発揮させるための飼育管理費及び調教費 16,877千円
県債務負担 実際残高	

【自己評価・評点集計】:(経営評価算出表により、法人自らが評価した結果を記入)

評価の視点	評価ポイント	評価項目数	満点	評点	得点率
目的適合性	出資法人が当初の設立目的あるいは公益目的と適合した業務を行っているかを問う視点	3	10	10	100.0%
計画性	出資法人が長期的ビジョンを持って計画的に事業運営に取り組んでいるかを問う視点	3	10	10	100.0%
組織運営の適正性	組織・人事・財務等の内部管理体制が適切に整備、運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切であるかを問う視点	3	10	9	90.0%
財務状況	出資法人の経営の安全性や収益性を問う視点	7	44	32	72.7%
効率性	出資法人の組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているかを問う視点	5	18	14	77.8%
合 計		21	92	75	81.5%



【警戒指標数】

目標達成度	
正味財産増減	
流動比率	
借入金依存率	
債務超過	
県の将来負担見込	
回収不能債権	
県の債務処理補助等	
公益認定基準抵触	

【出資法人の自己評価】:(各評価の視点毎に、法人自らによる分析・検証の結果及び対応策を記入)

目的適合性	公益財団法人として設立目的に沿った事業を実施し、本県の馬事振興に貢献するとともに、地域の観光協会、商工会等による山梨県馬術競技場サポートクラブと連携し、大規模馬術大会の運営をサポートすることで、地域の活性化に大きな成果をあげている。
計画性	経営計画及び事業運営合理化計画に基づいた管理運営を行っている。
組織運営の適正性	組織の人員構成や業務内容のチェック、また、各種規程等の見直しによる業務改善を常に心掛けている。また、ホームページを活用し、活動内容や財務状況等も積極的に公開している。
財務状況	(一般財団法人)生物科学安全研究所の受託試験がなかったことと、大会の開催数が減少したことにより収入は減少したものの、合宿等による強化トレーニング利用者が増加しており、競技場としての需要の高さを維持している。また、借入金はなく、安全な資金運用に努め、健全運用をしている。
効率性	大会や合宿の利用増加により施設の有効活用を図り、必要最小限の人員で計画した事業収入を確保できるよう効率的な業務推進に努めている。
総合的評価	合宿等強化トレーニング利用者が増加しており、競技場としての需要の高さを維持している。イベント等の開催で、地域振興に寄与しているなど公益性も高く、健全な経営状況であった。



対応策	クッション性とグリップ性に優れた白砂の馬場状況についてSNSを活用した周知活動を強化するなどし、新たな馬術大会や合宿、地域イベント等の誘致により、事業収益の確保に努める。また、光熱費や燃料費等の経費節減により公益財団法人としての健全経営を目指す。 さらに、大会が実施されない12月から2月まで冬期間の収益性を確保するため、馬を用いた委託試験や合宿等の有効活用を関係機関と積極的に検討する。
-----	---

【法人担当部局の所見】:(法人所管部局による各評価の視点毎の分析、評価)

目的適合性	設立目的に沿った事業を実施し、本県の馬事振興に貢献するとともに、地域の観光協会、商工会等による山梨県馬術競技場サポートクラブと連携し、大規模馬術大会の運営をサポートすることで、地域の活性化に大きな成果をあげている。 目標達成度については、昨年度と比較し大会数が減少したものの、強化トレーニング利用者は増加しており需要の高さは維持している。引き続き誘致活動に積極的に取り組み大規模大会の誘致等により利用数を増やし、集客力の向上にむけ努力していく必要がある。
計画性	経営計画及び事業運営合理化計画に基づいた管理運営を行っていく必要がある。
組織運営の適正性	組織の人員構成や業務内容のチェック機能は概ね良好である。また、各種規程等の見直しによる業務改善を常に心掛けており、ホームページを活用して、活動内容や財務状況等も積極的に公開している。
財務状況	今年度は生安研受託試験がなかったことに加え、JRA馬事公苑の再開に伴い大会数が減少したことにより経常収益が減少したものの、借入金はなく、安全な資金運用など、全体的に見ると健全な経営と言える。
効率性	大会や合宿の積極的な誘致などにより、施設の有効活用を図り、必要最小限の人員で事業収入を確保できるよう効率的な業務の推進に努める必要がある。
総合的評価	目的に合った計画的な運営を行っている。今年度は生安研受託試験がなく、またJRA馬事公苑の再開に伴い大会数が減少したことにより前年度よりも経常収益が減少したため、当期経常増減額はマイナスとなったが、借入金もなく、正味財産期末残高はプラスであった。 今後は障害馬場に敷設した白い砂のPRにより、新たな大規模大会の誘致と大会の継続的な開催に努めることで収益を増加させ自立的経営を目指していく必要がある。

【総合評価】:(経営検討委員会による総合評価)

総合評価 ランク	A	A 得点率80%以上かつ警戒指標なし B 得点率70%以上80%未満または警戒指標が1 C 得点率60%以上70%未満または警戒指標が2 D 得点率60%未満または警戒指標が3以上
総合的所見	得点率 81.5 % 警戒指標数 0	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度は、大会の開催数減に伴う収入の減少を現金預金で補ったことにより、流動比率の評価が下がり、財務状況の評点が低下した。 人件費や修繕費の増加等により管理費が増加し、管理費比率の評価が下がった。また、施設利用者数が昨年度に比べて大きく伸びなかったため、職員1人当たり施設等利用人数に係る評価が下がり、効率性の評点が低下した。 一方で、他の評点については昨年度同様に高得点率であり、総合評価はA評価を維持している。 今後も経費削減を行うとともに、馬術大会、イベント、合宿等の積極的な誘致への取組みにも努め、県内における馬事振興・普及に寄与することが期待される。



【総合評価に対する今後の対応方針】

<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度に企業版ふるさと納税を財源にオランダ産の白砂の敷設工事を実施したところ、大会関係者からは、グリップ性やクッション性に優れた馬場であると高評価を得ているところである。これにより、新規の大会を誘致するとともに、合宿の受け入れを推進し、公益目的事業である施設利用料収入の確保に努めていく。 また、馬を用いた委託試験や合宿等の施設の有効活用により、収益性向上に努める。 一方、光熱費や燃料費等の一層の経費削減に努めることにより、財務状況の安定に取り組んでいく。 令和8年度には青森県の国スポ馬術競技が本競技場で開催される。自県開催が難しい馬術競技の新たなモデルケースになるよう、積極的に取り組んでいく。 県が制定したビジョンに基づく「馬」のまちの主要施設として、北杜市や地域事業者との連携を密にし、小淵沢エリアの地域振興を積極的に進め管理する馬術競技場の利用拡大を図っていく。
